

公益社団法人日本新生児成育医学会 2024年度定時社員総会 議事録

日 時：2024年11月9日（土）16：00～18：00

会 場：ホテルブエナビスタ 3階 第1会場 グランデ

出席者：122名

委任状・書面評決提出者：90名

議 事：

1. 総会成立

本法人の総会における議決権者である代議員246名に対し、出席者が議決委任者および書面評決者を含めて212名となり、定款第26条および同第27条2項に基づき、本総会の成立に必要な過半数の定足数に達したため、高橋尚人理事長より総会の成立が報告された。

2. 理事長挨拶

災害、少子化、働き方改革、戦争と厳しい時代ではあるが、先生方の協力もあり2年間の理事長任期を務めることができたことに感謝の言葉があった。

3. 議事録署名人の選出

定款28条2項に基づき、代議員の高村恭子先生、豊 奈々絵先生が議事録署名人に選出された。

4. 大会長挨拶

第68回日本新生児成育医学会・学術集会の大会長である中村大会長より先生方の協力もあり大変盛況であること、本日5年ぶりに日本でThe 6th Japan-Taiwan-Korea Joint Congress on Neonatologyが開催され海外よりたくさんの参加があったことが報告された。

5. 理事長報告

1) 代議員・理事選挙の件

以下の方々に選挙管理委員会委員を務めていただき、代議員選挙、理事選挙を行った。新理事、新監事については第4号、第5号議案で審議予定である。

選挙管理委員長 北島博之先生（名誉会員：大阪母子医療センター）

委員 島 孝典先生（一般会員：大阪母子医療センター）

委員 尾上泰祐先生（一般会員：大阪大学医学部附属病院）

今年度、女性代議員数を総代議員数の25%以上をめざす女性代議員数のクォータ制を導入した。多くの女性会員に立候補いただき目標としていた25%を上回る63名の女性会員が代議員となった。新しく代議員になった先生方の今後の活躍に期待したい。

2) フォローアップ認定医制度導入の件

新生児医療をうけた子どもの成長を優れた知識と技能をもってフォローアップし、家族への支援を行える医師の育成に向けて、今年度フォローアップ認定医制度を導入した。初年度にあたる今期、多くの申請があり、審査の結果、254名の医師が暫定フォローアップ認定医となった。

3) 日本・台湾・韓国 3か国の新生児学会交流の件

The 6th Japan-Taiwan-Korea Joint Congress on Neonatology が2024年11月9日（土）、ここ日本で開催された。

日 時：2024年11月9日（土）8：40～15：30

会 場：ホテルブエナビスタ 第4会場レガロ

テーマ：22～23週の管理

講演者：Ming-Chih Lin (台湾), Ga Won Jeon (韓国), Johan Ågren (スウェーデン),
Matthew A. Rysavy (米国), 難波文彦 (日本)

MOU 締結：San-Nan Yang (台湾), Min Soo Park (韓国), 高橋尚人 (日本), 司会：岩見裕子

- 4) 米国小児科関連学会 (Pediatric Academic Society (PAS) Meeting) 2025 年度学術集会における発表者推薦の件
本学会から西口 亮先生 (国立病院機構長崎医療センター) を推薦し, 選出された。
2025 年 4 月 24 日～28 日にアメリカのハワイ州で開催が予定されている。
- 5) 文献許諾使用料の件
メテオ社 2023 年度の文献使用料は 16,372 円, 医学中央雑誌 28,380 円, サンメディア 9,075 円, それぞれ入金があった。
- 6) 「小児 RS ウイルス呼吸器感染症診療ガイドライン 2021」印税の件
日本小児呼吸器学会と共同編集した「小児 RS ウイルス呼吸器感染症診療ガイドライン 2021」の著作権使用料として 122,573 円が 5 月 10 日 (金) に学会の口座に振り込まれた。
- 7) 日本新生児成育医学会編『新生児学テキスト』印税の件
新生児学テキストの印税 1,013,760 円が 1 月 31 日 (水) に学会の口座に振り込まれた。
- 8) 「先天梅毒診療の手引き 2023」転載使用料の分配の件
日本小児感染症学会より, 本学会が監修団体として加わった「先天梅毒診療の手引き 2023」について, 転載許諾で使用料が発生した際, 監修団体である本学会にも分配がある旨, 連絡があった。
- 9) 「被災地の避難所などで生活する赤ちゃんのための Q & A」の件
朝日新聞に取材記事と一緒に本学会ホームページの URL が掲載された。また, 育児雑誌の『ひよこクラブ』編集担当者からも依頼があり, 「後期のひよこクラブ春号」および「たまひよ WEB」に掲載された。
- 10) 学術集会優秀演題賞選出の件
今年度より「学術集会優秀演題賞」を毎回選出することが決定した。選出方法として抄録からプログラム委員会が 10 題ほど選出することとした。選考にあたり, 分野・施設が偏らないようにする, 利益相反を確認する, またできるだけ若手を選出するように配慮することとした。本社員総会の最後に論文賞などと共に賞状を授与する。
- 11) 仁志田博司賞設立の件
仁志田学校同窓会が開催した 2023 年 12 月の献花式で集まった寄附金の剰余金が本学会に寄附され, 「仁志田博司賞」を新たに設けた。「赤ちゃんにあたたかい心を育む活動」をした個人ないし団体に授与することとなった。2024 年 8 月 31 日 (土) を締切として募集し, 5 件の応募があった。選考委員会の慎重な審査の元, 受賞者が決定した。選出された受賞者は社員総会最後に賞状・賞金を授与する。
- 12) 協賛金の件
日本光電工業株式会社様, フクダ電子株式会社様, エム・シー・メディカル株式会社様, 泉工医科工業株式会社様, 株式会社フィリップス・ジャパン様より第 27 回教育セミナーの協賛金をいただいた。

6. 庶務報告

2024 年 9 月末時点の会員数は 2,725 名 (男:1,705 女:1,004 未回答:16) で, 昨年は 2,656 名であり増加したことが報告された。退会者・資格喪失退会者の名簿の中で活動されている先生のお名前があれば, 会費納入を失念されている可能性があるため, 声をかけて欲しいと報告があった。また物故会員として名誉会員の小田良彦先生, 代議員の大森さゆ先生が報告され, 黙祷が捧げられた。

7. 審議事項

第 1 号議案：2024 年 9 月期 (2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日) 事業報告及び決算書類承認の件

事業報告として, 学会誌の刊行, 学術集会の開催, セミナーの開催, フォローアップ認定医制度の導入, 各

委員会活動、理事会・総会の開催を行ったことが報告された。

2024年度決算は経常収益は97,830,566円、経常費用は85,669,373円、当期一般正味財産増減額は12,161,193円となった。印税やフォローアップ認定医制度の審査料の収入があった。また、昨年度よりこれまで減少傾向であった会員数が少しずつではあるが増加傾向となっており、会費収入が増えたこともあって黒字決算となった。

与田監事より監査報告があり、賛成1/2以上で承認可決された。

第2号議案：2025年9月期（2024年10月1日～2025年9月30日）事業計画及び収支予算の件

2025年度の個別の事業として学会誌の刊行、セミナーの開催、フォローアップ認定医制度の審査、学会賞・優秀演題賞・仁志田博司賞の選出、フェロウシップ制度の選出、理事会・総会が開催される予定である。

2025年度の予算は経常収益は89,615,871円、経常費用は86,677,844円、当期一般正味財産増減額は2,938,027円となった。

予算には学術集会の予算が組みこまれており、コンベンション会社からの収支予算書をもとに算出している。また、事業は継続するので、必要な事業に関する予算は前年度を踏襲した金額となっている。収益は年会費、代議員費、暫定フォローアップ認定医の登録料などが見込まれ、費用は日台韓 Joint Congress や IPOKR aTES Japan 2025 などの海外交流費の支出が多く計上されており、例年と比べ正味財産増減額が少ない予算となった。

会場より、以前、教育セミナーの予算は700万円あったのに対し、ここ数年は300万円となっていることについて、現在の物価高騰の中、この予算で若手に魅力あるセミナーを開催するのは難しく、若手の入会につながるよう適正な予算評価をして欲しいと意見があがった。

教育委員会委員長である中西理事よりセミナーを現地開催することは会員の増加につながると考えるため、予算を増やしてもらうよう理事会に上申すると回答があった。

また、前教育委員会委員長より、以前は2つのセミナー開催で600～700万円を支出し青天井になりかけていた。本学会の収益が減ったこともあって、当時の理事長から予算を減らすよう指示があったことが報告された。

高橋理事長より、次年度黒字予算とはなっているが黒字幅は大きくないものの会員数の増加で収入が増える可能性があり配慮していきたいとの回答があった。今後の理事会で検討することが示され、賛成1/2以上で承認可決された。

第3号議案：第71回学術集会 会長選任の件

日下 隆理事が第71回学術集会会長に立候補し、賛成1/2以上で承認可決された。開催日時、開催場所については未定である。

第4号議案：新理事の選任に関する件

下記20名を理事に選任する件について賛成1/2以上で承認可決された。

荒堀仁美、諫山哲哉、落合正行、影山 操、北島康司、日下 隆、河野由美、佐藤義朗、東海林宏道、高橋尚人、長 和俊、徳久琢也、豊島勝昭、中西秀彦、難波文彦、水野克己、森岡一郎、山田恭聖、芳本誠司、和田和子

第5号議案：新監事の選任に関する件

以下2名を監事に選任する件について賛成1/2以上で承認可決された。

早川昌弘、細野茂春

第6号議案：新名誉・新功労会員推薦に関する件

下記25名を名誉・功労会員に選任する件について賛成1/2以上で承認可決された。

- 以下の3名を新名誉会員とすること

茨 聡、楠田 聡、側島久典

- 以下の22名を新功労会員とすること

新井順一, 飯藤順一, 加藤稲子, 川本 豊, 加部一彦, 久呉真章, 草川 功, 佐藤和夫, 清水俊明,
鈴木 悟, 鈴木 宏, 須田昌司, 関 和男, 高柳俊光, 田中太平, 永山善久, 西久保敏也, 西澤善樹,
西巻 滋, 三舘 浩, 吉尾博之, 米谷昌彦

8. 各種委員会報告

1. 医療の標準化委員会（諫山委員長）

- 1) 新生児医療の科学的根拠に基づく診療ガイドライン作成グループ（JEBNeo：Japan Evidence Based Neonatology）の活動。
 - ①「早産児の動脈管開存症の診療ガイドライン」と「早産児の慢性肺疾患の診療ガイドライン」第二弾の推奨決定会議終了。パブリックコメント後に、完成版を公開予定。
 - ②「新生児の薬剤ガイドライン」を薬剤班で作成中。
 - ③「極早産児の長期予後に関する Umbrella review」を、厚労科研の河野班と共同で行っている。
 - ④「早産児の栄養管理ガイドライン」を作成開始予定。参加者を公募する。過去の勉強会の録画データで自己学習した上で、ガイドライン作成に参加となる。

2. 薬事委員会（落合委員長）

- 1) 学会ホームページ会員専用サイト
 - ①「薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例」を常時募集している。
 - ②「医療用医薬品添付文書の妊婦に関する禁忌等の記載内容の変更を希望する薬剤調査」にて産褥婦・母乳移行に関する医薬品情報も常時募集している。
- 2) 日本医師会疑義解釈委員会より供給停止予定品目検討依頼があった。
05 疑 3631, 05 疑 3432, 該当なし。
- 3) 日本小児科学会薬事委員会
 - ①協和発酵キリン株式会社よりヒトエリスロポエチン製剤 エポエチンアルファ（遺伝子組換え）製剤「エスポー[®] 注射液 750」販売中止検討依頼があった。「代替医薬品が入手可能であり、本医薬品の販売が中止されても対応可能である」と回答した。
 - ②アシクロビル DS80% 「NK」薬価削除・販売終了に関する事前了承依頼があり、「新生児 HSV 感染症（疑い含む）では ACV 静注を直ちに開始し、21 日間継続する。左記終了後は中枢神経型の患児には ACV 経口薬を 6 か月間投与するため、経口 ACV の完全販売中止は容認できないが代替供給できる状況であればやむを得ないと判断する」と回答した。
 - ③フルコナゾール静注液 50mg/100mg/200mg 「サワイ」販売中止および代替薬の相談依頼があり、新生児医療連絡会を通じて抗真菌薬の使用状況調査を行った。多くの施設では既にフルコナゾールからポリコナゾールやミカファンギンに切り替えられており、「適用外使用や査定事例はなし、沢井製薬のフルコナゾール販売中止に対する中止要望をする根拠は乏しい」と回答した。
- 4) 第 68 回学術集会
薬事委員会・医療の質向上委員会・慢性期 iNO 保険収載 WG 合同企画ワークショップを開催。
「新生児領域に適切な医薬品を届けるために私たちに何ができるのか」

3. 医療安全委員会（影山委員長）

- 1) 会員より「MIC-KEY 胃ろうボタンのトラブル増加」についての問い合わせがあり、対応した。
- 2) 第 68 回学術集会医療安全委員会企画 教育講演 3「医療機器の添付文書—その法的な重要度を考えよう—」を開催する。
- 3) 前年度に JAMA Network Open に発表された「保育器内の早産児のアルコール曝露」を調べた研究論文について、その後の対応をした。

4. 学会将来構想委員会（日下委員長）

1) 若手医療者への学会のアピール

- ①日本周産期・新生児医学会との差別化をはかる。
- ②学会の国際化，学会誌の英文化，医療手技のセミナー等を国外で積極的に行う（新生児蘇生法，データ収集の確立，コホート研究のサポート）。

2) 多職種連携

- ①臨床工学技士（clinical engineer：CE）においては，現在，専門臨床工学技士（スペシャリスト）の認定が成人の集中治療領域で行われている。この制度に，技術や知識の講習会等で本学会が貢献する。
- ②臨床心理士の専門領域に周産期領域を構成し，その技術や知識の講習会等で本学会が貢献する。
- ③看護師の特定行為研修において技術や知識の習得を本学会が講習会等で貢献する。

3) 学会，学術集会の質的向上

- ①看護師の研究や臨床活動に医師が携わることでさらなる関係を築き，共同研究やフォローアップ，移行支援などでの共同企画を計画する。
- ②新生児臨床研究ネットワークへ学会からの全面的支援。

5. 男女共同参画推進委員会（河野委員長）

1) 2025～2028年度代議員選挙に女性代議員数のクォータ制を導入した。

- ①女性72名の立候補があり，クォータ制により62名，全体選挙により1名，計63名の女性会員が代議員となった。
- ②クォータ制の導入により多くの女性会員が立候補した結果，目標の25%に達した。

2) 女性・若手会員の学会活動推進を検討した。

6. フォローアップ認定医制度委員会（河野委員長）

1) 新生児成育医学会フォローアップ認定医制度を開始した。

- ①E-learningの4講義と確認テスト，症例要約10症例，分野別到達目標の自己評価の審査を行った。
- ②応募のあった254名を暫定認定医と認定した。
- ③審査を振り返り，細則に追加すべき内容を検討した。

7. 学会誌編集委員会（東海林委員長・代 高橋理事長）

1) 特集企画の検討

36巻1号：①遺伝学的検査の進歩とその応用（担当：熊谷 健委員）

②災害時リエゾン（担当：戸石悟司委員）

36巻2号：①新生児医療における withdraw, withhold（担当：戸石悟司委員）

②新生児栄養のトピックス（担当：宮沢篤生委員）

37巻1号：①知っておくべき頭蓋変形の診かた（担当：東海林宏道委員長）

②社会的ハイリスク妊娠の現状と課題（担当：松崎陽平委員）

2) 閲覧数（ダウンロード数）増加への試み

- ①目次のPDFとQRコードを添付して会員へ案内した。
- ②巻頭言のPDFをjpgデータにして学会の公式Xに添付した。
- ③特集企画を各論文単位ではなく特集単位でダウンロードできるようにした。
- ④第27回教育セミナーで学会誌についてアンケートを実施した。

3) その他

- ①投稿論文の査読は代議員の職務であることを承認して代議員選挙に立候補するシステムとした。
- ②投稿規定を改訂した。

8. 社会保険委員会（佐藤委員長）

- 1) 令和6年度診療報酬改定にて、新生児が関係する3学会、および日本新生児看護学会と合同で下記の提案を行った。
 - ①サイトメガロウイルス核酸定量
 - ②アルブミン非結合型ビリルビン
 - ③重症新生児対応体制強化加算
9. 医療の質向上委員会（長委員長）
 - 1) サーベイランス事業
 - ①軟骨低形成症（～2024年12月1日）
 - ②気管切開を要した慢性肺疾患（～2026年3月31日）
 - 2) フォローアップ事業
 - ①「低出生体重児の中長期的な心身の健康リスクの解明とフォローアップ・支援体制の構築に向けた研究」(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 河野班)
 - ②「NICUを退院した低出生体重児の長期フォローアップに関するアンケート調査」
10. 災害対策委員会（徳久委員長）
 - 1) 能登半島地震における周産期医療施設被害状況、要支援の確認（2024年1月1日）
 - ①石川県、新潟県、富山県の周産期医療施設が機能停止に陥るような被害状況がないことを確認
 - ②人的支援の必要性について、富山県庁の災害時小児周産期リエゾンより急性期の支援は必要なしと確認
 - ③急性期後の長期にわたる支援の必要性について要検討
 - 2) 日本小児科学会・分科会災害支援連絡会出席（2024年1月12日）
各分科会の能登半島地震における対応の共有、意見交換
 - 3) 第17回日本小児医療保健協議会小児周産期災害医療対策委員会出席（2024年1月12日）
1月1日～9日までの被災地の災害対策本部・リエゾンの活動、およびPEACE掲示板やメーリングリストを用いた日本小児科学会、四者協の活動のクリノロジー提示
 - 4) 第68回学術集会
災害対策委員会・新生児医療連会合同企画シンポジウムを開催
「企画能登半島地震でできたこと、できなかったこと、やりたかったこと」
11. 教育委員会（中西委員長）
 - 1) 第6回webセミナー「プロジェクトN, NICUを退院したその後」(担当：鷺尾洋介委員)
 - ・日 時：2024年6月5日（水）18：00～19：30
 - ・参加費：無料
 - ・参加者：80名
 - ・講 師：大木 茂先生，網塚貴介先生，南條浩輝先生，荒木俊介先生
 - 2) 第10回医学生・研修医向けNICU入門セミナー（オンライン）(担当：齋藤朋子委員)
 - ・日 時：2024年6月22日（土）13：00～18：00
 - ・参加費：学生と会員：無料，非会員：2,200円
 - ・参加者：48名
 - 3) 第27回教育セミナー（担当：寺澤大祐委員，杉浦崇浩委員）
 - ・会 場：ホテルグランヴェール岐山（岐阜県）
 - ・日 時：2024年8月24日（土）～26日（月）
 - ・参加費：会員：16,500円／非会員：33,000円
 - ・参加者：43名
 - 4) 第68回学術集会

①教育セミナー優秀ワークショップ

第27回教育セミナー・ディベートで最優秀賞を受賞したチームが登壇

②教育委員会企画ワークショップ

「意外と教えられていない？—エキスパートから学ぶ学会プレゼンテーションの極意—」

講師：北畠康司先生，田中佐代子先生，寺澤大祐委員

12. 慢性期iNO保険収載WG（中西WG委員長）

1) 慢性期iNOの本邦のNICUにおける実態調査アンケート（代表：宮田昌司委員）

慢性期iNOアンケート調査（施設調査）：2017～2021年における慢性期iNOの施設調査，症例調査を完了し，現在，英語論文ドラフト作成中。

2) 急性期以降iNO臨床使用に関するエビデンス抽出のためのスコopingレビュー（代表：加藤 晋委員）

①プロトコル論文（筆頭著者：熊本市民病院 南谷曜平先生）BMJ Openにアクセプト済

「Inhaled nitric oxide therapy for preterm infants after 7 days of age: a scoping review protocol」

Y. Minamitani, S. Kato, M. Hosokawa, T. Nakashima, S. Iwatani, A. Nakao, et al.

BMJ Open. 2024 Feb 19; 14 (2): e080298. doi: 10.1136/bmjopen-2023-080298.

②レビュー論文は，BMJ Openに投稿しMajor revision中

「Scoping review of initiation criteria for inhaled nitric oxide in preterm infants (born <34 weeks) after 7 days of age」

13. 新生児シミュレーショントレーニング普及推進WG（甘利WG委員長・代 中西理事）

1) 第2回NSimセミナーの開催

2024年7月15日（月）第60回周産期・新生児医学会学術集会会場近くの貸会議室で開催。

受講者22名（当日2名欠席で，出席者は20名），WG外の指導者補佐11名。

2時間10分で「急変対応」「気管挿管」「胸腔穿刺」のプログラムをローテーションで実施。

レールダル社からマネキン4体，アトムメディカル社から喉頭鏡2セットを無償貸出があった。

2) 第68回学術集会

①第3回NSimセミナーを開催

・2024年11月10日（日）8：30～12：00 第5会場で開催

・プログラムは「急変対応」「気管挿管」「胸腔穿刺」「臍カテ」

②口演発表（一般演題）

「新生児医療におけるシミュレーション基盤型トレーニングの開発・実践と，トレーニング受講者に与えた影響の調査」

演者：国立成育医療研究センター新生児科 甘利昭一郎

14. 国際渉外委員会（難波委員長）

1) The 6th Japan-Taiwan-Korea Joint Congress on Neonatology を開催

①難波文彦委員長がシンポジスト，長野伸彦先生，生田寿彦先生，藤岡一路委員がTravel Awardsとして参加した。

②座長として，加藤 晋委員，齋藤可奈委員，藤岡一路委員，安田真之委員が参加した。

③3か国の学会でMOU（基本合意書）を締結した（司会：岩見裕子委員）。

2) IPOKRATES Japan 2025 の開催

①2025年10月16日（木）～18日（土）の3日間で開催，会場はウエスタ川越（埼玉県川越市）。

②テーマ：Prevention and Treatment of Prematurity-related Morbidities

③講師：Phyllis A. Dennery, Souvik Mitra, Josef Neu, Tetsuya Isayama, Anup Katheria,

Peter Dargaville, Hirofumi Sawada, Ju-Lee Oei, Haresh Kirpalani, Barbara Schmidt

- ④プレコンgressとして、新生児シミュレーショントレーニング普及推進WG（甘利昭一郎WG委員長、小澤悠里WG副委員長）にワークショップを依頼した。他、臨床試験に関するワークショップを2件、予定している。
- 3) 31st Annual Spring Meeting of the KSN から講演依頼
2024年5月17日（金）に韓国で開催された学会へ中村信嗣委員を派遣した。
演題名「Prospects for a new treatment strategy with hydrogen gas inhalation for neonatal asphyxia」
- 4) Asia Pacific Pediatric Association (APPA) Outstanding Asian Pediatrician Award
発表者を学会員より募集し、委員会で選考した1名を推薦したが、選出されなかった。
15. 学術委員会（長谷川委員長）
- 1) 第5回 web セミナー開催
配信日：2024年1月22日（月）18:00～19:00 + 質疑応答、参加者94名
講演1「エディター・レビューアーに読んでもらえる症例報告の基本（2）図表を中心としたお作法」
細野茂春先生（自治医科大学附属さいたま医療センター周産期科新生児部門）
講演2「さまざまな障害や疾患のある児童生徒・学生に対する修学・就労へのインクルージョンと中長期的な伴走支援～DO-IT Japan の実践から～」
近藤武夫先生（東京大学先端科学技術研究センター 社会包摂システム分野）
- 2) 論文賞、佐多フェローシップ留学者の選考
- ① 2023年度学術奨励賞受賞者
中村信嗣氏（香川大学医学部小児科）
論文名：Impact of hydrogen gas inhalation during therapeutic hypothermia on cerebral hemodynamics and oxygenation in the asphyxiated piglet
掲載雑誌：Scientific Reports 2023；13：1615
- ② 2023年度学会論文賞受賞者
星野雄介氏（茨城県立こども病院新生児科）
「肺超音波検査を活用した呼吸窮迫症候群に対するサーファクタント投与の予測」
35巻第1号 113-119頁掲載、受理日：2022年12月19日
- ③ 2024年度佐多フェローシップ留学者
池田健太先生（東京女子医科大学附属足立医療センター新生児科）
16. 倫理委員会（飛弾委員長）
- 1) 2024年10月11日（金）に「第7回 web セミナー」を開催
「話し合いのガイドライン改訂の要点と協働意思決定の実践」
講師：笹月桃子先生（日本小児科学会ガイドライン改訂WG委員長）
会員専用サイトでオンデマンド配信も行っている。
- 2) 第68回学術集会ワークショップ開催
倫理委員会企画多職種ワークショップ
「重篤な疾患を持つ子どもの医療をめぐる話し合いのガイドライン」改訂版をどのように使えるかを考える。
家族4名、学生1名、看護師3名、医師4名、心理師（士）5名、臨床遺伝カウンセラー1名が参加した。
17. 用語委員会（細野委員長）
- 1) 日本小児科学会用語委員会委員の交代
当学会からの担当を細野茂春委員長から清宮綾子委員に交代した。
- 2) 日本小児科学会の「小児科医の到達目標」の改訂に際し、委員会で検討し回答した。
18. 広報委員会（水野委員長）

- 1) 学会の公式・広報 X で施設紹介ならびに学会・セミナーの告知を行っている。
- 2) 周産期関連のセミナーに関しては学会ホームページに掲載している。

19. 病気・ケアの解説作成 WG (長谷部 WG 委員長・代 水野理事)

- 1) 「病気・ケアに関するやさしい解説文」を74名の先生が執筆し、学会ホームページに掲載準備中である。

20. 感染対策予防接種委員会 (森岡委員長)

- 1) トキソプラズマ IgG 抗体アビディティー (IgGAvidity) の検査の早期承認の要望書提出について、通信理事会で承認されたのを受け、関連6団体と一緒に2024年1月に厚生労働省へ提出した。
- 2) 本学会から公表している「新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について (第6版)」の改訂について検討したが、見送ることとした (5類への移行を受け、各施設に応じた対応が求められるため)。
- 3) 「日本の NICU でのパレコウイルス感染症の院内発症の全国調査」を開始した。
- 4) 日本小児科学会の「日本における RS ウイルス感染症に対する抗体製剤・ワクチンの使用に関するコンセンサスガイドライン検討ワーキンググループ (委員長: 森岡一朗)」にて活動し、日本小児科学会のホームページに、以下が公開されている。

「日本におけるパリビズマブ適応追加に関連した注意事項」

「日本におけるニルセピマブの使用に関するコンセンサスガイドライン Q&A」第1,2版

21. 診療委員会 (芳本委員長)

- 1) 2023年11月、日本小児科学会慢性特定疾病委員会における厚生労働省への追加要望に関する調査に対し、「超低出生体重児に起因する慢性症候群」を申請したが要望候補にはならなかった。2024年については諸条件が対応できておらず申請を見送った。

22. 総務委員会 (和田委員長)

- 1) 予算, 事業計画, 決算書類確認を行った。

23. 調査研究審査委員会 (飛弾委員長)

特になし

24. 産科医療補償制度対応委員会 (細野委員長)

特になし

25. 英文誌 WG (森岡 WG 委員長)

特になし

26. 利益相反委員会

特になし

9. 第69～71回会長挨拶

第69回学術集会 (高橋会長)

2025年11月13日 (木)～15日 (土), パシフィコ横浜 会議センター

テーマは「激動の社会の新生児医療～未来への勇気と希望～」

世界的に戦争や政治的分断も含め、混乱の時代ではあるが、こんな時だからこそ勇気と希望が必要と考えてテーマを決めたことが報告された。

第70回学術集会 (森岡会長)

2026年11月20日 (金)～22日 (日), パシフィコ横浜 ノース

70回という記念に相応しい学術集会にしたいと報告された。

第71回学術集会 (日下会長)

「アジアの Neonatology」「Pathophysiology を中心とした学会のサイエンス」「Developmental Neuroscience」の3つのテーマを考えており、新しい時代にあった学会を開催したいと報告された。